

令和5年度 穴生小学校学校経営方針

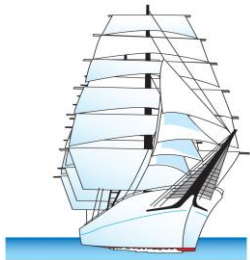
北九州市立穴生小学校 校長 弥永 和利

＜令和5年度の船出にあたって＞

ようやく「ポストコロナ」「アフターコロナ」の時代がやって来ました。みんなで心をひとつにして、知恵を出し合って、“アップデート（更新）”できることはやっていきましょう。

新しい船出です。私たちは、縁あって、この穴生小学校に集いました。永い永い時間の流れの中で、同じ国に、同じ時代に生まれて出会うことは、不思議な縁があると思えません。このとても不思議で、すてきな出会い。この出会いは、奇跡です！この出会いは、これから先、きっとたくさんの喜びや感動をもたらすに違いありません。まず、このことをより大切なこととしてとらえて、船出しましょう。

そして、私たちは、それぞれのよさを発揮し、心の温度を上げ、力を合わせて、大切な大切な穴生小の子どもたちを乗せて、安全に航海していきましょう。



行く手には、穏やかな波もあれば、荒波もあることでしょう。そのときは、“がんばる穴生小の職員の気持ちが、穴生小の子どもたちの未来を変える。”
“重い荷物は、みんなで持ちましょう。”

“いいですか、あきらめたときが試合終了ですよ。”

という思いを胸に秘め、私たちみんなで、子どものために前へ前へ進んでいきましょう。

でも、きつくなったときは、ひと休み、ふた休み。休んでいれば、きっと、次のいい風が吹きます。
迷ったり、ぶれたりしそうなときは、“このことは、子どもにとってどうだろうか”と、子どもたちをど真ん中に据えていれば、大丈夫です。

みんなで心と力をあわせて、穴生小の子どもたちのために“いい仕事”をしていきましょう。

1 学校教育目標

心身ともに健康で、温かい思いやりの心を持ち、自ら学び自ら考える児童の育成

2 目指す児童像

- はげむ子（徳） 豊かな心を持ち、友だちのよさを認め、ともにはげむ子ども
- のびる子（体） ともに体をきたえ、たくましくのびようとする子ども
- すすむ子（知） すすんで学習し、よりよい自己を求めてやまない子ども

☆合言葉は、「いい あのお」

「いい」⇒いちばんに、いのちを大切にする。

「あ」⇒あいさつができ、最後まであきらめない。

「の」⇒のびていく。「お」⇒おもいやりの心をもって。

3 目指す学校像 子どもの力が伸びる学校

—学校が好き 先生が好き 友だちが好き 穴生の町が好き そして 自分が好き—

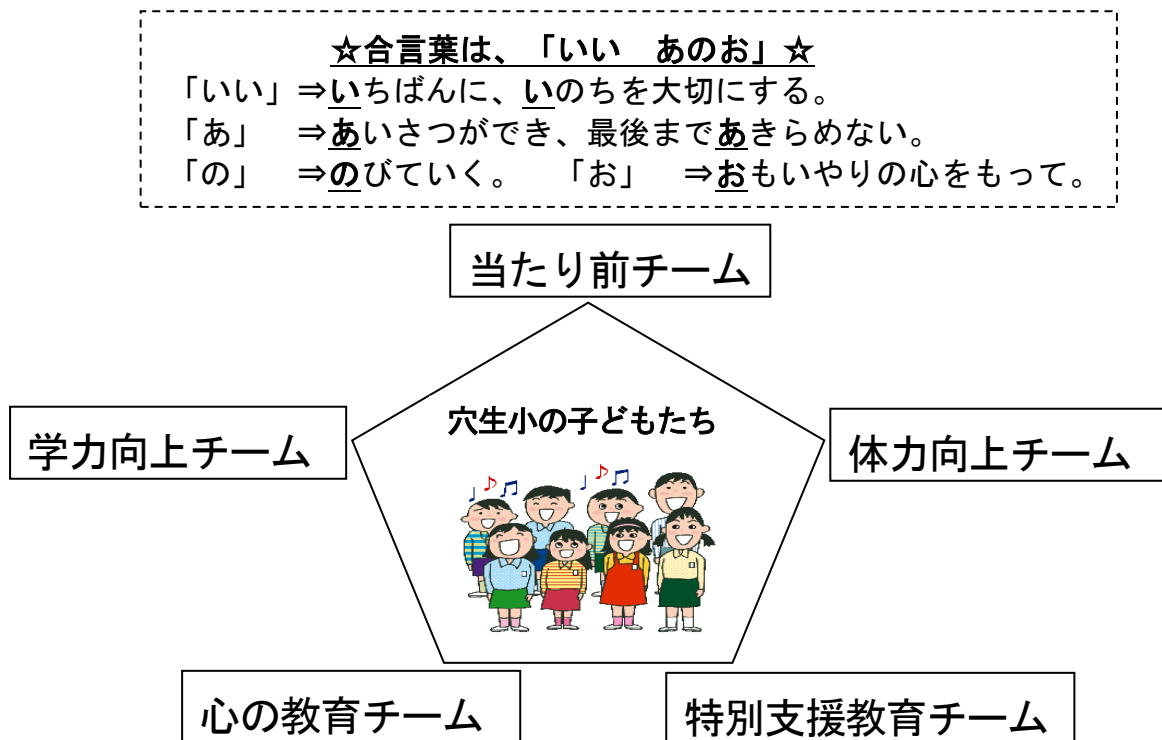
- 子どもにとって『行きたい学校』
- 保護者にとって『行かせたい学校』
- 教師にとって『働きたい学校』
- 地域住民にとって『行ってみたい学校』

4 目指す教師像

- 子どもに深い教育的愛情を持ち、教育に熱い情熱をもつ教師
- 子どもの力を伸ばすために、日々の授業を大切にする教師
- 子どもに寄り添い、明るく接し、温かい言葉をかける教師
- 子どもの一人一人のよさや可能性を見つけ、引き出し、育てる教師
- 子どもとよく遊び、共に汗を流す教師

5 穴生プロジェクトチーム ※ボトムアップで、みんなでスクールプランをつくり、推進する。

- 「穴生プロジェクトチーム」の5つのチームの取組の充実と推進及び相互の連携を図る。
- 穴生小の子どもたちのよさや特質、そして課題を考えて、取り組んでいく。



- **当たり前のことが、当たり前ができるように**（本校の子どもたちの未来のために）
～「大人になっても、当たり前のことが当たり前ができる子どもを育てよう。」～
※＜穴生中学校区スタンダード～「あたりまえのことがあたりまえにできる」児童生徒の育成～＞

☆「当たり前チーム」（児童の企画委員会等との連携） ※穴生小の課題解決に向けて

- ◎ “共通の指導”の徹底（全職員が同じ考えの下で）。
- ◎ 「望ましい姿」が、当たり前だという雰囲気、空気をつくる。
- ◎ 「望ましい姿」（未来のために）に向けて、日常的な指導と月ごとの重点的な指導を行う。
※教師は、「1週間の目標」を決め、教師の姿を通して子どもたちに伝えている。

＜昨年度の月目標＞

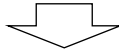
- ・あいさつを自分からしよう。 ・外で遊んだら、手洗い消毒をしっかりしよう。
- ・廊下は右側を歩いて、けがをしないようにしよう。
- ・熱中症に気をつけて、こまめに水分補給をしよう。 ・もくもくそうじをしよう。
- ・毎日の給食に感謝しながら静かに食べよう。 ・身の回りの整理せいとんをしよう。
- ・寒くてもポケットに手を入れないようにしよう。
- ・あいさつレンジャーになれるように自分から進んであいさつをしよう。
- ・クラスのみんなど楽しい思い出を作ろう。

＜教師の1週間の目標＞

- 月：早めに教室に行き、子どもを待とう。
子どもは、どんな様子で登校しているかな？
- 火：あいさつは、まず教師から。
朝は気持ちのよい元気な一言ではじめよう。
- 水：小さなルールを守れる者は、大きなルールも守れる。
小さなルールを守れない者は、大きなルールも守れない。
- 木：言葉は、人なり。
教師は、子どもの言葉の環境であることを意識しよう。
- 金：整理整頓、気持ちもすっきり。仕事時間の業務改善。

◎ 穴生小の子どものこれまでの三つの大きな課題の改善と継続指導

- 1 登校時間が守れない子どもが多い。(8:20までの登校)
◎基本的な生活習慣の欠如。「**早寝、早起き、朝ご飯**」
- 2 授業中に、うつ伏せしたり、肩ひじをついたりする子どもが多い。
- 3 その学年の既習学習の定着が十分でない子どもが多い。



- ・とにかく4月が鍵！まず登校時間の徹底！しつこく徹底！
- ・職員の「当たり前チーム」と児童の「企画委員会」の連携、全職員で。
- ・「登校オリンピック」の成果と継続指導

◎ 「1秒キラリ」

- ・(例) チャイム席を守る。机の上を片付ける。くつをそろえる。など

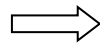
◎ 「あいさつレベル表 (あいさつ7)」⇒ あいさつレンジャー

- ・白レンジャーを目指す。＜名前を呼んで目を見てあいさつができる。＞

6 本年度の重点目標

(1) 2学期制の導入

- 業務改善と子どもと向き合う時間の確保、職員の健康保持（ワーク・ライフ・バランス）
 - ・在校時間を削減していきましょう。
 - ・月平均在校時間を **45時間以内に。**
 - ・年休取得日数を **12日以上に。**
- 心のアンケート・教育相談の充実一年間4回
 - ・一人一人の子どもと向き合い、心に寄り添っていきましょう。
 - ・いじめや悩みを早期に発見し、早期に解決していきましょう。
- 学びチャレンジ週間（補充・発展学習）の実施一年間2回
 - ・基礎基本を確実に定着させていきましょう。
 - ・子どもの学びたい、伸びたいという気持ちを引き出し、それに応えていきましょう。



「学校における業務改善プログラム」の目標値

(2) ICTの活用 ※実態調査やアンケートから、児童、職員、保護者の活用に対する意識が低い。

- 「すべての子どもが、学校で、GIGA端末を毎日使っている！」と実感できるように。
- 「いつも身近にGIGA端末！」
 - ・GIGA端末は、鉛筆や消しゴムのような文房具の仲間、いつも身近に

“合言葉”は、

I・・・いつでも活用！
G・・・ちょっとでも活用！
T・・・ためらうことなく活用！

(3) 専科指導と持ち合い授業の推進 ※**積極的に、持ち合い授業を！**

- 学級・学年の枠を超えた、チームで児童を育てる体制づくり
 - ＜・通年で実施 ・単元を限定して実施 ・学期を通して実施＞
 - ・持ち合う教科を増やすことにより、教材研究を行う教科数の軽減が図られる。
 - ・それぞれの教員による、多面的に児童理解が図られる。

(4) 一人一人に寄り添う教育の推進

- ① 特別支援教育、特別な支援を要する児童の指導、行き渋り、不登校傾向の児童の指導
 - ケース会議⇒拡大ケース会議（保護者同席）の設定。

※ “この子にとって一番いい方法、環境は？” 作戦会議。

- 適切な個別の指導計画や個別の教育支援計画等の作成及び情報共有。
- 関係機関につなぐ手順の明確化（ケース会議の場で審議）。
⇒ **特別支援コーディネーター（特別支援学級担任）、学級担任、教務主任、管理職、養護教諭**
- 特別支援コーディネーターと各学級担任、特別支援教室（校内通級）との連携。
・ 取り出し指導、クールダウン（保健室など）、「コグトレ」の活用 など。
- 保護者との連携、学校での様子の参観。
- スクールカウンセラーとの連携。

☆ **ステップアップルーム**での対応 ⇒ 令和4年度の大きな成果。

・ 養護助教諭の対応・・・担任、保護者との密な連携。

本来の業務＋ステップアップルームの対応（負担の改善点）

☆ **「あおぞら学級プライド」**

・ “ちょっと努力すれば、どんどん伸びるあおぞら学級”

・ 決して、勉強ができないからではない！

＜昨年度末の職員アンケートより＞

- ・ 拡大ケース会議によって、就学相談や教育相談につなげることができました。お忙しい中、ありがとうございました。
- ・ 保護者から相談を受けた時は、保護者の思いを受け止め、早急にケース会議につなげるようにお願いします。
- ・ この1年あおぞらの子どもたちが活躍できる場を作ってくださって、先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。ゆっくりではありますが、確実に成長できました。一人ひとりの課題は違いますが、ぜひ来年度もよろしくお願いいたします。

② 生徒指導

- いじめ問題は、「どの児童でも、どの学校にも起こりうるもの」。
全教職員が「弱い者をいじめることは、人間として絶対に許さない」という共通理解に立ち、**児童の発するサインを見逃さないようにする。**
- 「心のアンケート」「教育相談」等の確実な実施と日頃からの児童の行動観察を通して、いじめ等の早期発見・解消に組織的に取り組む。
- 事案が起こったら、まずじっくり聞く。**「一方を聞いて、沙汰しない」**

＜生徒指導の三機能＞

1. **自己決定の場を与える。** 2. 自己存在感を与える。 3. 共感的な人間関係を育成する。
(「これから、どうしていきたいのか？」自分の言葉で言わせる。)

- 「穴生小スタンダード」（穴生小の生活のきまり）の徹底。
- **友達と仲よくなれる “魔法の技” ⇒相手の気持ちになって考える。**

③ 人権教育

- 公教育の立場で全教育活動を通して「差別を見抜き、差別を許さず、差別をなくす」実践に努める。
- 時代の変化にも対応できる**鋭い人権感覚を磨く。** ※LGBTQなど
※「人権教育ハンドブック」「私たちと同和問題」の積極的な活用を図る。

④ 健康教育

- 学校事故・交通事故などの防止に努め、事故発生時の処理は迅速かつ誠意をもって当てる。（学校危機管理マニュアルの確認）
- 学校給食の指導の充実に努めるとともに、養護教諭や管理職等と連携して食育の推進に当たる。**特に、食物アレルギー対応給食事故の防止（誤食の防止）に努める。**
※ 除去食等児童の確実な把握を行い、補欠の職員が入る場合には、確実に連絡を行う。
※ 毎月の「食物アレルギー対応給食検討委員会」の確実な実施。

- **新型コロナウイルス感染症の対応 ※気を緩めずに！**
 - ・毎朝の「自宅で行う健康チェックリスト」の継続指導を、教室で行う。
 - ・換気、手洗い・消毒の励行、マスクの着脱（マスクの着用を求めないことを基本に）

(5) 道徳教育の推進 ☆ **本校の研究テーマ4年次（別途提案）**

（穴生小の子どもたちの“心の耕し”の推進） **※心の温度を1度でも2度でも上げたい。**

- 道徳科の週1時間の授業を**地道に、確実に**
 - ・学級経営の基盤となる時間を積み重ねる。
 - ・子どもの発言をしっかりと受け止め、教師の問い返しなどで、紡いでいく授業をしていく。
 - ・**“子どもも、教師も変われる時間である”**ことを意識する。
 - ・学級目標を、学級や子どものよさを引き出す鏡として大切にする。
- ※絵に描いた餅ではなく**“本気の学級目標”**の設定、学級目標と道徳科との関連を図る。
- 学校教育全体で行う道徳教育の意識を。
 - ・様々な体験を“豊かな体験”に
 - （例えば）算数科の授業をしながら、道徳教育の視点が必ずあることの意識をもつ。

【道徳科の授業で大切にしたいこと】 プロジェクトD5

- ①週一時間の道徳科の授業を**地道に**やっていく。 ※徐々に、確実に、**つむいでいく。**
- ②“待つ”心構えと“受け止める”心構えをいつも大切にしていく。
- ③「道徳科の教材は、教師が子どもに贈る“心のプレゼント”である。
- ④子どもの“よさ”を見抜いていく。
- “大切なことは、心の目で見ないと見えない。”（星の王子さま）
- ⑤道徳科の時間以外でも、**日頃から**、“いい話”“心が温まる話”をする時間をつくる。
- ※子どもと教師の心が通じ合う瞬間の積み重ね。教師の体験談、失敗談、願い、思い、読んだ本のこと、新聞記事、テレビで見たことなど

7 その他、日常的に大切にしたいこと

- ① 新鮮な、ほうれんそう（報告・連絡・相談）
 - ・とにかく、一人で抱え込まない。**「重い荷物は、みんなで持つ」を合言葉に。**
 - ・**悪い情報ほど、速く（スピード感）あげる。**
- ② 日常的な危機意識の大切さ、その積み重ね。危機意識の究極は、子どもの命を守ること。
 - 危機管理「さ・し・す・せ・そ」
 - ・さ～最悪のことを考えて ・し～慎重に ・す～素早く
 - ・せ～誠実に ・そ～組織で
 - なんととっても、**初期対応の大切さ！**
 - ・起こしたことより、対応のまずさが問われる。
 - **「すぐにとべ！」・・・迷ったら、足を運ぶ、顔を見て話す。**
 - ・アルバート・メラビアンの法則 視覚55%、聴覚38%、言語7%
 - ヒヤリ・ハット（冰山の一角）
 - 保護者対応の基本は、「まず、しっかりと、じっくりと聞く」（寄りそう）
 - ⇒それだけで60%は解決
- ③ 子どもの心を豊かにする教室環境づくり **※「かくれたカリキュラム」の大切さ**
 - “**空気が人をつくり、人が空気をつくる。**” 環境が子どもに働きかける影響は大きい。
 - ・教室環境—— ①新鮮、②アイデア、③変化（継続）
 - ・言語環境—— 人権感覚や言語感覚を働かせて整える。
 - ※ **授業での言葉遣いを大切に**する。
 - ※ **「丁寧な言葉を遣うことは、子どもを大切にし、子どもを尊敬すること。」**

○ 最も大切なのは、**机・椅子の整理整頓**

・荒れない学級の基盤は、ここにあり。

・必ず、一時間一時間の最初に確認し、指摘したり、褒めたりする。

④ “**黄金の3日間（一週間）**” の実施。

・学習のルール等を、学級や学年で決めて、徹底する。根気強く。

・最初が、肝心！これができれば、あとはスムーズに。

⑤ 子どもが主役となる場づくり

○ 子どものために学校があり、私たち教職員がいる。常に「子どもの側から」の視点を持ち、工夫改善を行う。

○ 「させられる」のではなく、子どもが自分の生活を創り出していくように、自分で考える、自分で行動する場面を工夫する。 **（※ おしゃかさまの指）**

○ 学校における様々な教育活動は、価値があるから位置付けられている。諸活動の事前・事後の指導、**特に事後の振り返りの指導を大切に**して価値を自覚させ、そこに感動や満足感、充実感が生まれるようにする。 **※指導と評価の一体化**

⑥ 公務員として

○ 「すべて職員は、全体の奉仕者として公共の利益のために勤務し、且つ、職務の遂行にあたっては、全力を挙げてこれに専念しなければならない。」地方公務員法第30条

○ 体罰・言葉の暴力の禁止、交通法規の遵守（特に飲酒運転は厳に慎むこと）、個人情報保護、セクハラ、パワハラ等、信用失墜にあたる行為をしない、公務員として自覚ある行動を。

※ アンガーマネジメント

・ 怒りを、どう解消するか。 ・ 怒りと、上手く付き合う。

・ 怒りのピークは、最初の6秒。深呼吸などで、ぐっと抑える。

・ 一方的に怒ることは解決にならない。伝えたいことが伝わらない。いいことなし。

・ 怒りのNG ▲ 「前から思っていたんだけど」→ そのことだけ叱ればいいのに。

▲ 「何でね？」→ 相手をせめたてる。

▲ 「いつもやん」「必ず」「絶対」→ 訳も十分に聞かず、決めつけてしまう。

・ **怒るは、自分の感情が先。叱るは、その人のために。（だから伝わる）**

・ メタ認知

・ 客観的に自分を見る。

・ 俯瞰的に自分を見る。

※ 穴生小学校の子どもたちの特徴

○ 頭ごなしに指導すると、すぐにシャッターを下ろす子どもが多い。

⇒ ・ とにかくしっかりと話を聞いてやる。 ・ 具体的に、しっかりと褒めてやる。

<昨年度末の職員アンケートより>

・ 学力的に課題を抱えている子であっても、根底には「もっとできるようになりたい」という思いがあるはずです。毎時間の授業づくりにこれからも力を注いでいきたいと思います。

・ 発達段階の特徴なのかもしれませんが、自分のした行いを振り返り素直に反省できない児童がいて、指導がなかなか通らなくて対応に悩みました。

・ 穴生小の子どもたちは全体的に素直なので、挨拶を進んで行うように重ね重ね指導すれば、学校全体の雰囲気をもっとよくなると思います。

⑦ 共に成長できる職場に、明るい職場に

○ 健康第一、体調がよくないときは、遠慮なく休みましょう。

・ 体調が悪いときは、自分のことを優先に考えましょう。自分のことだけを考えましょう。家族のことも大切です。

・ **「仕事の替わりはできるが、健康の替わりはできない。」**

☆ まず第一に、自分のこと、次に家族のこと、三番目に仕事のことを。

- いつでも校長室へ、どうぞ。
- 先輩の指導技術や得意技を伝承していきましょう。OJTを大切にしましょう。
 - ・ 特に若い先生は、いろいろな先生との出会いを大切にし、いろいろな先生のよさをたくさん見抜いて、“盗んで” いきましょう。
 - ・ **同僚性を育んでいきましょう。**
- お互いのよさを褒め、認め合っていきましょう。お互いに感謝する職場にしましょう。
「人は、人に支えられて生きている」「感謝に優る、能力なし」
「ありがとう、〇〇さん」が、たくさん聞こえる職場にしましょう。
- **一人で抱え込まなく、声を出しましょう。(重い荷物は、みんなで持ちましょう。)**
- 得意な人に頼むことも大切です。その分、自分の得意分野でお返ししましょう。
- 情報の共有を常に図りましょう。特に、子どものこと、保護者のことは、みんなで知っておきましょう。
- 挨拶は生活の中の潤滑油。お互いに声をかけ合い、明るい職場にしましょう。※ 雑談のすゝめ
 - ・ 挨拶に、スランプはありません。

- ・ 「ありがとう」と「ごめんなさい」は、誰よりも先に。
- ・ 「何かすることはありますか。」「私がしましょうか。」



⑧ 業務改善、ワークライフバランスの意識を大切に

- 職員の1カ月の時間外勤務時間が、45時間を超えないように。
- 水曜日は、18:00までに全職員退校を目指す。18:00全校消灯の実施。
合言葉は、“水曜日、6時だよ！全員退校！”
- “持ち帰り仕事”をどのように減らしていくか。工夫と覚悟。
脱100点主義、70～80点で。使い回し。
- **積極的な、「持ち合い授業」の推進。**

【もう一度、確かめたい6つのこと】

I 私たち教師は、まず「45分の授業で勝負」です。

- ・ 始まりと終わりのけじめをつけましょう。
- ・ 授業を通して子どもと向き合う時間を大切にしましょう。
- ・ 1年間の授業時間数は、約1000時間あります。この1000時間をどのように子どもと向き合ってきたか、これが大切だと思います。1000時間を見失ってはできません。

II 学級目標が絵に描いた餅ではなく、「本気の学級目標」を。

- ・ 学級目標をプラスの視点で常に意識し、子どもたちのよさと重ねていくことが大切です。

III うまいかないこともあります。失敗もあります。

- ・ 「うまいかなかった要因は何か。」これをしっかりと捉えれば、絶対に次につながります。
- ・ その要因は、「子どもなのか、保護者なのか、いや教師としての自分なのか」と、思い巡らすことが大切です。
- ・ 特に、教師としての自分の指導を振り返り、点検できたときは、新しい自分に出会えると思います。うまいかなかった分岐点（ターニングポイント）が、きっとあるはず。

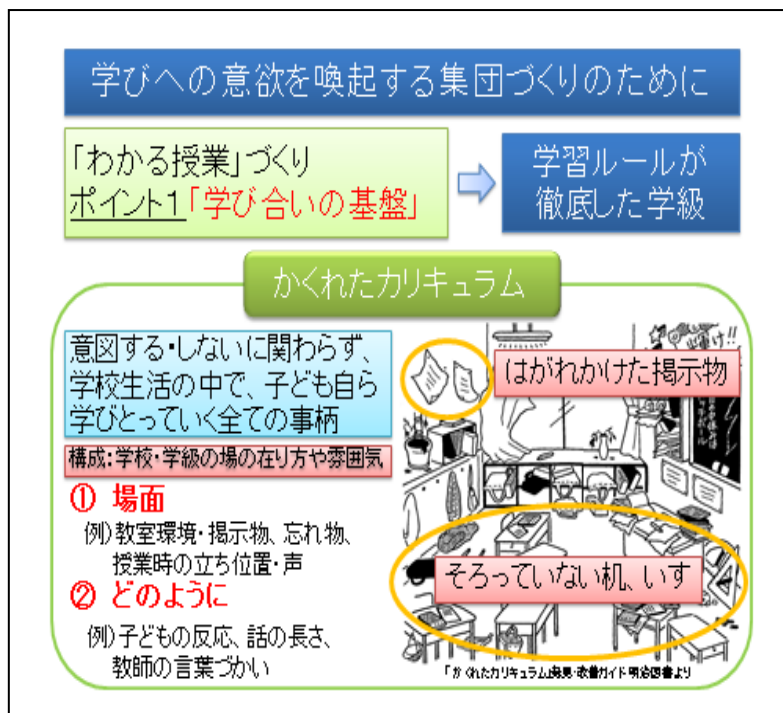
IV “教師たる前に、社会人たれ”

- ・ 社会人の基本は、「時を守り、礼を尽くし、場を淨める」です。
- ・ 組織の一員としての身構えの「同僚性」を大切に、みんなで育てていきましょう。

V みんなで決めたことは、みんなで「徹底し、やり切る」ことの大切さ。

- ・ 「穴生スタンダード」
- ・ 学力アップ、もくもく掃除、廊下通行、机の整理整頓、あいさつ など。

VI 「かくれたカリキュラム」について



- ・ 教師が意図する、しないに関わらず、学校生活の中で、子ども自ら、知らないうちに、学びとっていく全ての事柄です。

- ・ 「先生がこうだから、こうしていいんだ。」 「先生が約束を守らないなら、自分も守らなくていいんだ。」というような、子どもの思考が生まれると赤信号です。

- ・ “空気が人をつくり、人が空気をつくる。” 環境（教室環境・言語環境）が子どもに働きかける影響は大きい。

- ・ 教師の人権感覚や言語感覚をどのように身に付けるか。

※ 授業での言葉遣いを大切に。

- ・ 「丁寧な言葉を遣うことは、子どもを大切ににし、子どもを尊敬すること。」